

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)		コンビニ（店舗管理）	・2月の不景気の原因が全て豪雪であるため、今後は解消される。
		商店街（代表者）	・春の訪れとともに、大雪の影響によって買い控えていた物の購入が出てくる時期である。季節要因以上の期待感がある。
		商店街（代表者）	・除雪費用がかなりの金額になり、良くも悪くも経済効果はある。今後の消費増に期待している。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・大雪の影響が落ち着いた今もそうだが、旅行客が戻ってきている。春の観光シーズンはまた観光客の増加が見込める。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・客の購買意欲が高まっている。
		百貨店（売場主任）	・大雪の影響で来客数が大幅に減った2月を底とすると、これ以上景気が悪くなることは考えにくい。4月以降の賃上げによる効果を期待している。
		スーパー（店長）	・相場によって左右されていた仕入価格が、徐々に下がってくる。
		衣料品専門店（店舗運営）	・店頭では徐々に春物が動き出し、売れ筋商品なども出てきている。今月が悪かった分の反動として、前年並みに推移すれば景気はやや好転する。
		家電量販店（店長）	・エアコンの早期取付が年々早くなっているため、今年は好調となりそうである。
		乗用車販売店（経営者）	・雪害の反動で全体の動きが活発になり、少し良くなると期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・春の需要期を前にイベントを予定しており、売上増を期待している。
		自動車備品販売店（役員）	・天候に大きく左右されるものの、今月後半から客の動きが早くなっている。必要な物を早めに安く用意しようとする客が多い。ガソリン単価が下がってきており、ゴールデンウィーク前の需要喚起につながることを期待している。
		一般レストラン（店長）	・今月は雪という特殊要因があったため、来月以降の回復を期待している。
		スナック（経営者）	・鉄工業や製造業関係は忙しいとのことであり、動きに期待をしたい。
		観光型旅館（経営者）	・4月以降は大型団体客の受注が例年並みに入っている。また、各旅行会社やネットエージェントが北陸支援のキャンペーンを計画しており、観光客が増加すると期待している。
		旅行代理店（支店長）	・販売量は上向き見込みである。
		通信会社（役員）	・直近数か月の契約獲得件数はほぼ横ばいである。しかし、前年比では確実に増加しており、引き続きこの傾向が続くと期待している。
		テーマパーク（役員）	・今月の状況と比較すれば、当然やや良くなる方向にあるものの、今回の豪雪による風評被害によって予約状況が鈍っているため、今月の傾向がやや尾を引くような動きがみられる。
		美容室（経営者）	・大雪からの復興目的で買物需要は多くなりそうである。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税の引上げを控え、今年は土地購入や建築の動きが活発になると見込んでいる。
	住宅販売会社（従業員）	・今後ますます土地購入などの動きが激しくなる。	
	住宅販売会社（営業）	・消費税の引上げに対して、動きが活発化する。	
	一般小売店〔精肉〕（店長）	・来客数は多少増えてきたようだが、売上の的には前年並みである。売上も徐々に増えていくとみているので、今後もその傾向が続いていくと期待している。	
	一般小売店〔事務用品〕（店員）	・物流経費が上がる分の販売価格の値上げによって、買い控えが起こることを懸念している。	
	百貨店（営業担当）	・一時期より天候が落ち着いてきたことから、今まで買い控えてしていた反動で、車で来店する年齢層の客が来店し、購入量が増えるのではないかと期待感がある。しかし、客の購買意欲はここしばらく変化がないことから、景気がすぐに回復するとは期待できず、やはり変わらないというのが現状である。	
	百貨店（販売促進担当）	・平昌オリンピックによる祝賀ムードのため、一時的に国際情勢の不安感がかき消されてはいるものの、全体消費をけん引する中間層では節約志向が強く、消費マインドの改善に向けて依然として厳しい状態が続く。	
	スーパー（店長）	・消費回復の勢いに力強さは感じられず、回復基調が続くか見通せない状況である。	

	スーパー（総務担当）	・パートとアルバイトの新規採用は厳しい状況が続いている。少なくとも悪くはなっていないようだが、良くなっているという実感はない。
	スーパー（総務担当）	・3月から一部の商品で値上げが発表されており、支出に対して更に敏感になりそうである。
	スーパー（統括）	・景気動向に大きな変化はない。
	スーパー（店舗管理）	・地元農産物や鮮魚などの価格高騰がしばらく続くとみられるため、良くなる要素は見当たらない。
	コンビニ（経営者）	・大きな変化がみられない。
	家電量販店（本部）	・景気が好転する要因が見当たらない。
	住関連専門店（役員）	・消費支出の優先順位が高い食品や光熱費、燃料などの高騰が響いている。ますます財布のひもが固くなっている様子が顕著である。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・良くなる兆しは全くない。
	その他小売〔ショッピングセンター〕	・野菜や一般食料品を中心に値上げラッシュが続いている。購入客数は減少しているものの、客単価は前年より高い状態である。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・来客数は積雪によるマイナス影響が大きくみられるが、客単価と購入率は共に前年を上回る傾向にある。減少傾向の来客数が戻ってくれば、売上全体の改善が見込める。
	一般レストラン（統括）	・食材原価や人件費など経費負担が多い状況が続いているが、現状より大きく変わる要素はみられない。
	観光型旅館（スタッフ）	・前年の低迷から脱して、先行予約が大きく改善しており、Web受付も好調に推移している。予約状況は6月までの分で、前年比120～130%の保有となっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	・ガソリンや食材の高騰により、消費が抑えられるのではないかと心配している。
	都市型ホテル（役員）	・宿泊部門、レストラン部門共に、1～2月は大雪の影響により若干厳しい結果である。ただし、宴会部門で例年の新年会があったため、全館では変わらない状態である。また、今後の予約状況も例年と同様であるため、景気動向は変わらない。
	タクシー運転手	・観光や行事関係の予約が順調に入っている。
	通信会社（職員）	・商品力が高まり、来客数は増えているものの、市場のパイの奪い合いであり景気判断は変わらない。
	通信会社（役員）	・商戦期が終了し、例年同様に契約数の動きは一段落する。
	通信会社（営業担当）	・販売量が前年と変わらずに推移している。客は必要最低限のサービスプランを選択しており、景気が良いと感じられない。
	競輪場（職員）	・売上に特段の変化はみられない。今後下降する気配もないが、上昇に転じる要因も見当たらない。
	コンビニ（店長）	・コンビニエンスストアの系列ごとになじみ客があり、今まで遠くまで足を運んでいたケースでも、近くの店が系列店舗に転換すると、わざわざ遠くの店まで買物に行かない。そのため、従来店の売上は全国的に減少している。当店は15年前から加盟店であるため、そのあおりを受けている。回復の見込みはない。
	衣料品専門店（経営者）	・大雪の影響から全く回復しないうちに春物商戦に入っており、なかなか立ち直れない。
	衣料品専門店（経営者）	・地政学リスクや、米国の金利上昇に伴う株価変動が影響しそうである。
	高級レストラン（スタッフ）	・1～2月の大雪の期間に、春以降の団体客の受注が弱かった。例年と比べて95%ほどの受注である。
	旅行代理店（所長）	・リピーターの団体の問合せはあるが、出張関係を含めて個人客の動きがない。
	タクシー運転手	・2月は記録的な大雪で良かったが、今後はその反動で悪くなる。
	通信会社（営業担当）	・携帯電話販売商戦のピークが過ぎ、来客数、販売量共に落ち着いてくる。
	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	・新年度に入り、最も入会の動きがみられるときであるが、競合との価格比較となると大変不利な状況になっている。
	x	-
企業動向関連		-
(北陸)	プラスチック製品製造業（企画担当）	・大雪の影響がなければ、本来の受注状況から考えて回復傾向にある。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・国内の設備投資需要は依然として堅調である。また、そのための設備部品などの受注も順調に推移している。国外においては、欧州向けを中心にオートバイ用部品の受注が好調であり、今後もその傾向は続く。

	建設業（役員）	・当面の工事発注量は現状程度で推移するとみられ、受注価格競争は一時的に緩和方向に向かうと考える。
	金融業（融資担当）	・大雪の影響が一段落すれば、サービス業や小売業では地元客や観光客の客足が戻り、収益は改善すると事業者はみている。一方で、製造業の受注状況は堅調を維持しており、物流が回復すれば先行きは明るい。
	不動産業（経営者）	・個人客や法人客共に、2か月先ほど先であれば少し検討したいという話が出てきている。
	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注をみて、変わらないと判断した。
	精密機械器具製造業（役員）	・ここ何か月かは、ほぼ現状のレベルで生産量を維持している。ただし、当社の場合は海外販売比率が比較的高く、円高による影響を懸念している。
	建設業（経営者）	・3月は例年のように年度末工期の元請けや下請工事の完成に追われるが、4～5月は新年度の始まりであるため、これも例年のように工事が設計段階で発注とならず、暇な日々を送ることになる。
	輸送業（配車担当）	・現状の状態が続くとみられるが、最近は特に、人手不足とドライバーの高齢化のために、仕事があっても受託できない状況である。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・今月も前年同月の売上を下回っている。2月の大雪によって交通網が乱れ、チラシの出稿を見送ったとも考えられる。そのため、2月の数字は余り当てにならない。その予算が3月に回ることを期待している。
	司法書士	・日常生活は戻ったが、一旦離れた発注先が地元企業に戻ってくるか心配である。また、ビニールハウスなどの復旧では工事業者が限られているなかで追い付いておらず、経済活動が元に戻るにはまだ時間が掛かる。
	税理士（所長）	・中小企業経営者の判断からすると、従業員の給料を上げられないという状況が続いている。やはり、親会社からの受注価格の査定が厳しいようである。中堅より下のパートなど、今まで賃金が低かった人はベースが上がっていくものの、それ以上の中堅やベテランなど今まで給料が高かった人に対しては、なかなか賃上げができない。そのような悩みを中小企業経営者は多く抱えている。そういった面で、消費の方にはなかなか向かないという、厳しい判断が背景に多いようである。
	食料品製造業（経営企画）	・手応えの感じられる新商品が出てこない。なかなか新商品自体がヒットしない。また、販促企画がマンネリ化しつつあり、この先数か月は苦戦しそうである。
	繊維工業（経営者）	・原油高になっており、原料価格が値上がりしている。また、電気料金も来月から値上げされることに加え、運賃など物流面では既に値上げに入っている。したがって、受注環境は厳しくなりそうである。生産コストが高いことから、利益率も悪くなる。
	繊維工業（経営者）	・電気代や人件費などの上昇があり、それを価格転嫁できるかどうかが大変な問題である。また、為替の変動によって輸出関係の商品についての先行き懸念があり、少し先がみえない不安な状態にある。
	一般機械器具製造業（総務担当）	・工作機械を製造するための基幹部品が納入されず、生産が遅れている。このために受注がキャンセルとならないかが不安材料である。
	金融業（融資担当）	・酒類卸に聞くと、春に向けてビールの値上げが控えており、しばらくは売上が低下する見込みである。
	x	-
雇用関連	-	-
(北陸)	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・人手不足が一時的なものではなくなってきており、景気は良くなる方向で動いている。
	職業安定所（職員）	・1～2月は大雪の影響が多少なりともあったが、それも落ち着きつつある。製造業の求人増加傾向は継続しており、それに対して全体的な求職者の減少傾向は変わらない。
	学校〔大学〕（就職担当）	・前年より製造業の求人活動が活発である。今まで照会がなかった大手企業や県外企業の訪問が目立っている。
	人材派遣会社（役員）	・ハローワークに求人依頼をしても、全く反応がない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用につながる動きが出てこない。
	新聞社〔求人広告〕（営業）	・大雪の影響から、主要業種では3月以降に期待を込めているようではあるが、実際は思うようにはいかない様子である。

	職業安定所（職員）	・求人数が増加しているものの、派遣求人であったり、契約社員であったり、企業が正社員を増やそうという意欲はみられない。
	民間職業紹介機関（経営者）	・ある中小企業では、学生の定期採用への応募がないため、中途採用募集に変更して数人を確保したと聞いている。
	-	-
x	-	-